



基本
理念

世界に魅力を発信する植物園

～「世界一の都市・東京」にふさわしい植物園として、江戸園芸文化と植物多様性を次世代に伝える～

神代植物公園は昭和 36 年の開園以来、50 年を超える歩みの中で約 4,800 種類、10 万本の植物を擁する我が国を代表する植物園として発展してきました。私たちは「世界一の都市・東京」にふさわしい植物園として、世界の主要都市を代表する植物園と同様に、東京を訪れる世界の人々がまず足を運び、魅力とステイタスを兼ね備えた植物園を目指し、以下の 5 つの視点に基づいた管理運営を行います。

視点Ⅰ 江戸園芸文化の 保存・継承	●古くからの江戸園芸植物のコレクションの充実とそれらの品種の保存・充実 ●江戸園芸植物の栽培技術、展示技術の継承・発展
視点Ⅱ 植物多様性の保全	●子どもから高齢者まで、分かりやすい形で植物多様性の大切さを普及 ●東京の植物多様性を守り育てていくために「植物多様性センター」を拠点としたネットワークづくり
視点Ⅲ 防災対応力の向上	●広域避難場所及び大規模救出救助活動拠点としての防災機能を最大限に発揮できるよう、地域や警察・消防・地元市と連携した防災訓練等の実施により防災対応力を向上
視点Ⅳ 魅力向上と情報発信	●植物コレクションの拡充を図るとともに植物展示技術等の工夫を凝らし、植物公園としての魅力向上 ●植物公園の魅力を広く社会や都民に伝え、来園者を増やしてファンを拡大していくための積極的な情報発信
視点Ⅴ 都民や企業等との パートナーシップ	●ボランティアや市民団体等との連携により魅力的なイベント・プログラム等を展開し、植物や園芸に関する知識、植物多様性の大切さを学べるよう、質の高いお客様サービスを提供 ●企業等と連携した企画イベントや広報活動等の推進

具体的な取組

取組 1 失われゆく江戸園芸を保存し、継承・発展させていきます。

- ①江戸園芸植物の保存・充実
 - ウメ、ツバキ、ツツジ、古典菊、江戸園芸植物コレクションの充実及び品種保存
- ②江戸園芸の栽培技術の継承
 - 古典菊の仕立て等、江戸園芸植物を保全・育成する伝統的な栽培技術の継承、発展
- ③江戸園芸文化の発信
 - 「韻勝園梅譜」の特別展示会等による江戸園芸文化の積極的な発信

●達成指標：江戸園芸植物展示会等実施数 ●目標値：年間 10 回以上

江戸園芸植物の文化を広く発信していくため、サクラソウ植替え教室、苔玉教室等を開催します。また、植物愛好団体等と連携して、イワヒバ、古典菊等の展示会を実施する等、江戸園芸植物を学び楽しむ場を提供していきます。

取組 2 植物多様性の大切さを伝え、東京の植物多様性保全のための拠点づくりを進めます。

- ①絶滅危惧植物の保護・増殖
 - 研究機関と連携した絶滅危惧植物の保護・保全のためのモニタリング調査・無菌培養等を実施
- ②植物多様性に関する情報収集・発信
 - 日本植物園協会関東拠点園会議等による植物多様性保全ネットワークの充実、情報収集・発信
- ③植物多様性に関する教育普及
 - 幅広い世代に対応した環境学習プログラムや講座等の開催による植物多様性の普及啓発

●達成指標：優先保全種保護カルテ作成数 ●目標値：全 118 種(平成 37 年まで)

「環境省版第 4 次レッドリスト」及び「東京都の保護上重要な野生生物種(本土版)」に記載された 118 種の優先保全種について、モニタリング調査を実施して保護カルテを作成します。

●達成指標：講習会の実施 ●目標値：年間 10 回以上

植物多様性センターを拠点とした多様性保全の普及啓発の一環として、植物に関する基礎知識から絶滅危惧種の保護増殖まで、幅広い内容を学べる講習会を実施していきます。

取組 3 植物資源の充実と活用を図っていきます。

①植物コレクションの充実

- バラやペゴニア等、各種花木、宿根草等の増殖・購入により植物コレクションを維持・充実
- 企業や関係団体等と連携し、新品種の導入や既存品種を拡充
- 技術提携しているチリ国立植物園との連携・協力によるチリの希少な植物の導入

②植物展示技術の向上

- 菊の神代花車等の園内展示や園外でのバラ展出展等による展示技術の向上
- 神代植物公園ならではのテーマ性ある植物展示、企画展示、園内解説等の実施

③植物の維持管理水準の向上

- 高い専門知識を必要とする植物の栽培技術等を継承するため、専門家による研修や OJT を実施

●達成指標：新規導入品種数 ●目標値：500 種(平成 37 年まで)

神代植物公園が有する数多くの植物種のコレクションの質の充実を図るため、10 年間で 500 種を新たに導入して保護・育成し、貴重な植物資源として次世代に引き継いでいきます。

取組 4 情報発信力を強化していきます。

①植物公園独自の HP 開設や SNS を活用した情報提供

- 協会 HP (3,900 万アクセス/年) 等の活用に加え、神代独自の HP を開設し、詳細な情報を発信

②マスメディアへの対応力の向上と既存宣伝ツールの効果的な運用

- テレビ・新聞への働きかけ強化と効果的なプレス発表の実施
- 外部の展示会や講演会等における積極的な広報・宣伝活動の展開

③旅行・観光に関わる民間企業、団体との連携

- 鉄道会社や旅行代理店と連携したキャンペーンの展開等による団体客の誘致

④小学校・幼稚園・保育園への積極的な情報提供

- 小学校や幼稚園等にイベントや学習プログラム等の情報を提供し、利用を促進

●達成指標：入園者数+多様性センター入館者数 ●目標値：75 万人(平成 37 年入園者数)

日本を代表する植物園として植物園本来の質の向上を図りつつ、植物公園としての利用促進に努め、有料区域入園者数と植物多様性センター入館者数を合わせて、平成 37 年度の入園者数 75 万人を達成します。

取組 5 来園者サービスの向上に努めていきます。

①旬な植物情報を分かりやすく提供

- 園内での掲示、ガイドマップ等のセルフガイドツールの充実、ICT 活用による植物情報の提供

②園内ガイドの充実

- 職員やボランティアによる園内ガイドの充実

③子ども向けサービスの拡充

- 子ども向けセルフガイドツール、クイズラリーや親子自然教室等のプログラムの充実

④誰もが安心してご利用いただける環境の整備

- 各所の段差解消によるバリアフリー化等ユニバーサルデザインに配慮したサービスの向上

●達成指標：植物ガイド参加者数 ●目標値：10 万人(平成 37 年までの合計)

様々な体験を通して利用者が植物や自然の大切さを分かりやすく知って頂くため、植物園の職員及びボランティア等による植物ガイドを実施し、10 年間で 10 万人に植物の魅力を伝えていきます。

維持管理計画

1 維持管理の方針

(1) 安全・安心・快適性を常に追求する計画的な維持管理

- ①PDCA サイクルにもとづく計画的な維持管理（予防保全的観点での維持補修）
- ②新たに「公園クイックナビシステム」（GPS）を導入した迅速・的確な維持管理

(2) 公園をレガシーとして未来に継承する上質な維持管理

- ①地域の誇りとなる「パークビュー」等の景観形成を考慮した維持管理

【パークビューの一例】

ばら園	大温室	正門前
世界バラ会連合優秀庭園賞受賞庭園として国際的な高レベルでの維持管理を実施	リニューアルにより魅力が増した温室で多種多彩な植物の収集・展示	首都東京の植物園の顔としての風格の維持と季節の花々によるウェルカムビュー
		

- ②ユニバーサルデザインに配慮した維持管理（外国人向け多言語対応サインの充実等）
- ③効率的で良質な維持管理（特約店の活用・近隣共同作業による質の高い維持管理）

(3) 多様な主体と連携・協働した効果的な維持管理の推進

- ①新技術活用判定会議を活用した新技術の導入等による効果的な維持管理
- ②花壇管理などボランティアや住民等との協働による維持管理の推進

(4) 緊急時における迅速・円滑な対応

- ①事故や故障に備え特約店と連携し、24 時間 365 日緊急対応可能な体制を確保
- ②台風や集中豪雨時には、ハザードマップを活用した災害防止対策を実施

2 事故や災害、感染症等を未然に防ぐ安全対策と発生時の対応

(1) 危険箇所や要因の早期発見と対応

- ①日常点検等の強化（アメニティ巡回、桜花期等繁忙期の重点警備）
- ②協会樹木医による樹木診断や公開診断、点検員による樹木点検、マツ枯れ防止等
- ③電気設備の法定点検、遊具の定期点検と精密点検、水遊び施設の常時監視等

(2) 気象・地震災害に対する備えと対応

- ①台風大雨に備えた緊急配備体制の確保、(株)ウェザーニューズ社と契約した異常気象情報の早期収集と活用、気象災害時の特約店対応
- ②発災時に備えた職員緊急参集訓練や複数の通信網による通信訓練の実施

(3) デング熱等感染症等への事前の備えと対応

- ①蚊の発生しやすい側溝の清掃や藪の除去、薬剤等の事前確保、抑制剤散布等実施
- ②発生時には都と連携した薬剤散布、状況に応じた施設閉鎖、利用者広報等を実施

オリンピック・パラリンピックを契機とした公園の魅力向上の取組

(1) 「世界一の都市・東京」にふさわしい植物園に向けたチャレンジ

- ①日本を代表する植物園としての魅力とステイタスを確かなものとするため、「Tokyo Metropolitan Jindai Botanical Gardens 再生プロジェクト」を発足

(2) おもてなし・窓口サービスの充実

- ①英語基本フレーズ集の活用や大学連携等による外国語ボランティアの配置により、英語対応が可能な窓口の設置
- ②職員を植物公園内はもとより、歴史・文化・観光施設、交通機関、周辺情報等を案内する「公園コンシェルジュ」に任命し、育成
- ③パスポートや特定文化・スポーツ施設チケットの提示でオリジナルグッズを進呈

(3) 公園で「花と緑のおもてなし」

- ①公園出入口等に世界から訪れる人々を華やかに迎える「公園でおもてなし花壇」を設置
- ②朝顔、菊、盆栽等の江戸園芸植物の鑑賞ツアーを開催
- ③植物多様性センターで島しょ・高尾・奥多摩等を紹介する展示を拡充

(4) 公園から世界への情報発信（多言語）の強化

- ①HP を多言語化（日英）し、スマホ等各種情報端末で詳細情報を取得
- ②多言語アプリ（日英）を開発し、スマホ等で楽しめる旬の情報を発信

(5) 公園施設の美化・魅力向上

- ①東京都と連携し、日本を代表する樹木「サクラ」の名所再生、魅力アップと PR を実施
- ②公園の緑の更なる安全・安心・快適性向上のため、適切な樹木管理を徹底
- ③トイレ・ベンチのクリーンアップ大作戦の実施によるおもてなし水準の向上

発災時の役割を果たすための取組

(1) 公園協会における防災対応力の向上

- ①震災対応マニュアルに基づく震災対応訓練を実施します

対象箇所	訓練内容（年間頻度）
神代単独	避難誘導訓練（1 回）、防災施設運用訓練（1 回以上）、MCA 無線・IP 無線訓練（毎週）、衛星携帯電話使用訓練（毎月）、大規模救出救助活動拠点確保訓練等
防災グループ合同	合同防災施設点検・運用訓練（2 回）、都機動班等との連携訓練
公園協会全体	勤務時間内発災訓練（1 回）、夜間等参集訓練（1 回以上）

- ②防災関連業務に精通した防災推進リーダーを配置します。
- ③災害時の通信手段を複数用意し、強靱な連絡体制を確保します。

(2) 東京都や自衛隊・警察・消防等関係機関や地元市との連携強化

連携先	連携内容
東京都（建設局）	・MCA 無線、レスキューナビゲーションの配備・初動対応訓練の合同実施
東京都（総合防災部）	・現地機動班の受け入れ態勢の確保・現地機動班の配備資材の適切な管理 ・現地機動班防災訓練への参加・協力
自衛隊	・現地調査等への協力・連携訓練等への参加
警察・消防	・来園者、避難者等の支援に関する協力体制の充実 ・救急救命訓練、消火訓練の連携実施
調布市	・「防災協力協定」の締結と連携協力体制の充実 ・調布市総合体育館等と連携した訓練の実施
三鷹市	・「防災協力協定」の締結と連携協力体制の充実

(3) 地域連携による地域防災対応力の向上、防災意識の普及啓発

- ①地域連携防災訓練や防災施設見学会、防災意識の普及啓発イベント等を実施します。
- ②「私たちの防災力」「防災公園かわら版ともすけ」等により防災意識の普及啓発を図ります。